



上着を投げ捨てる。秀明、血の付いた方の手を、外さずに歩いていく。

○ とあるアパート・前（朝）

規制線が張られており、数台のパトカーが停まっっている。警察たち、現場検証を行なっている。秀明、近くの曲がり角の影からアパルトの方を見ている。秀明、少しの間現場検証の様子を観察している。

野次馬「ずつと介護されていたお母さんが殺されたんですって」

野次馬「酷い話ねえ。どうしたらそんなに酷いことが出来るのかしら？」

野次馬「本当にねえ」

○ 同・リビング（夜・回想）

加藤信子（73）血を流して地面に倒れている。キツチンのコンロでは鍋が煮立っている。キッチンの上は少し荒れていて、争った形跡がある。秀明、包丁を持って走り去っていく。

○ 同・前（朝）

秀明、野次馬を睨み、歩いて行く。

○ 公園

秀明、ゆっくりと歩いてやってくる。数人の親子、いた水道では吉田潤（6）、水遊びをしていた。側では吉田潤（3）、かながら、潤を見守っている。秀明、何をか見つけ、潤の方近づいて行く。潤、何か赤いもの

潤「い（奈美）にねえ見て、なんか赤いもの

奈美

「どれる水道の近くに、ついてる血を指差し



